

～EkiLab「ものづくりAWARD」受賞作品を商品化～ 上越新幹線開業40周年記念商品を発売します！

- JR東日本新潟支社と株式会社ドッツアンドラインズは、アイデアコンテストEkiLab「ものづくりAWARD」で受賞した作品を初めて商品化し、新潟駅で行う11月12日(土)の上越新幹線開業40周年イベントに合わせて販売を開始します。
- 上越新幹線をデザインしたおちょこと日本酒のセット、およびE5系・E7系の工作キットを販売します。
- 地域と一体となった商品開発を通じて、上越新幹線開業40周年を盛り上げていきます。

■商品概要

JR東日本クロスステーションが運営するNewDays新潟東口店にて、11月12日(土)より販売開始します。

1. ポンポン酒 上越新幹線おちょこ

○販売価格：2,000円(税込み)

○販売個数：3,000個(限定販売)

○特徴：おちょこ1個と新潟県内の酒蔵の日本酒50mlがセットのカプセルトイ

磁器、ステンレス、^{つち}錘起銅器※のおちょこに歴代の上越新幹線のグラフィックをデザイン

上記3素材×5デザインの15種のうち1個がランダムに出る

上越新幹線開業40周年デザインが刻印された錘起銅器が最も希少(約125個に1個)

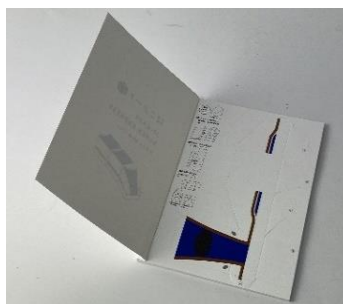
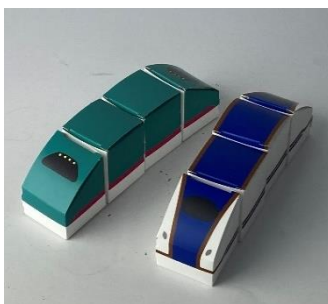


※錘起銅器…^{つち}錘起とは錘で打ち起こすということ。職人の手によって、一つ一つ一枚の平らな銅板を錘で打つことを繰り返し、立体的な形に作り上げる江戸時代中期から燕三条エリアに伝わる伝統技術。

2. はこノート

○販売価格：440円(税込み)

○特徴：1冊のノートを切り離し組み立てると、新幹線E5系、E7系モデルの箱となる工作キット



【参考】株式会社ドッツアンドライズと「EkiLab 帯織」について

株式会社ドッツアンドライズは、代表の齋藤 和也氏が、無人駅活用のアイデアを公募するプロジェクトにおいて、「燕三条地域の産業発信地と交流拠点を創りたい」という想いを実現するために設立。

2 度のクラウドファンディングによる資金調達を経て、信越本線・帯織駅にものづくり体験・交流施設「EkiLab 帯織」を 2020 年 10 月に開業。多くの会員を集め、ワークショップの開催や新製品開発など、県内外のユーザーと燕三条のものづくり企業・技術とを繋げる取り組みを推進している。



▲EkiLab 帯織(信越本線・帯織駅)

株式会社ドッツアンドライズ代表 齋藤 和也氏



燕三条で生まれ育ち、製造業に携わる者として、後継ぎの問題、DX への対応といった地域課題に挑み、地域・産業を活性化していきたいという想いで、「EkiLab 帯織」のプロジェクトをスタートしました。

今回は、玄関口である燕三条駅に、「ものづくりの街の総合窓口」を作る、新たなチャレンジが始まります。燕三条が、誰にでも開かれたものづくり企業の集積地となり、そこに多くのコラボレーションが生まれ、産業・地域が活性化していくことを目指して、これからも挑戦し続けていきます。

【参考】EkiLab「ものづくり AWARD」について

株式会社ドッツアンドライズが主催し、JR 東日本新潟支社が協賛しているものづくりアイデアコンテスト。燕三条の技術と応募者の自由な「あれつくりたい」「これほしい」といったアイデアを繋ぎ、商品開発を推進。

2020 年度に初めて実施し、今まで 2 回開催。各回において、グランプリ 1 作品、JR 賞 1 作品、優秀賞 2 作品等を選出している。「ポンポン酒 上越新幹線おちょこ」は第 1 回のグランプリ、「はこノート」は第 2 回の JR 賞を受賞。

※画像・イラストはすべてイメージです。